

2級 大問1 対応冊子 2014年度秋期, 2015年度春期・秋期

2015年度秋期の大問1は, 2014年度秋期, 2015年度春期に引き続き, 従来のものとは異なる新しい形式で出題されました。『独検過去問題集 2015年度版 (2014年度実施)』では, 秋期の大問1の出題ポイントとして,

- ・名詞から派生する形容詞
- ・分離前つづり
- ・定型表現 (熟語) を含む文の適切な語順
- ・副文の正しい構成

が挙げられていますが, 今回, 分離前つづりは出題されませんでしたし, 他の問題も, 少しずつ出題形式やポイントが異なっています。

このような状況を見ますと, 大問1の出題形式, ポイントなどが最終的に決まるまで, まだある程度時間がかかると考えられますので, 当分の間, 「後追い」の形になりますが, 試験が実施される毎に, 随時, 出題問題を検討し, 次回用の対策を別冊形式で補充することにします。

なお, 本体で扱っている, 大問1の従来からの学習事項も, 今回の変更に関わりなく, 独検対策として必要なものですので, 従来通り, しっかり学習し, 受験の準備を万全にされることをお勧めいたします。

2015年12月

著者

大問 1 過去問 出題ポイント一覧

*2015 年度秋期については、本冊子の各該当箇所を参照。

小問 1

- 【2015 年春】否定を表す接頭辞 **un-** が付く形容詞と付かない形容詞
- 【2014 年秋】名詞から形容詞を作る接尾辞
- 【2014 年春】複数形：語尾を付けないタイプと **-s** タイプ
- 【2013 年秋】複数形：**-e** タイプと **-en** タイプ
- 【2013 年春】複数形：ウムラウトするか、しないかの区別

小問 2

- 【2015 年春】分離前つづり
- 【2014 年秋】分離前つづり
- 【2014 年春】比較級でのウムラウト
- 【2013 年秋】語幹末尾が **-ck** の動詞の三基本形
- 【2013 年春】不規則変化動詞の三基本形の変化タイプ

小問 3

- 【2015 年春】副文での、複合的動詞句の語順
- 【2014 年秋】**in der Lage sein**／**noch**／**nicht** の組み合わせ
- 【2014 年春】分離前つづりと副詞の語順
- 【2013 年秋】2 倍、3 倍などの比較表現
- 【2013 年春】比較級の作り方と動詞の語順

小問 4

- 【2015 年春】副文、**zu** 不定詞句、**denn** 文の組み合わせ
- 【2014 年秋】関係文と間接疑問文と **als** 文の組み合わせ
- 【2014 年春】定形の動詞と副詞の位置
- 【2013 年秋】**noch heute** という副詞の結合、**fertig schreiben** という動詞と結果を表す語句の結合
- 【2013 年春】前置詞句の区切りと **einer/eine/eines**＋複数形名詞「…のうちの一人<一つ>」という表現の区切り

第 1 問 派生語と接辞 (小問 1 に対応)

【過去問と類題】 次の (1) ~ (3) の条件に当てはまるものを下の 1 ~ 4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) (冊子本体には 2014 年度秋期過去問掲載)

(2) 名詞 Wichtigkeit「重要さ」の基になる形容詞 wichtig「重要な」のように、-keit と結びついて名詞を作る形容詞。

(2012 年度秋期類題)

1 gelassen 2 krank 3 möglich 4 frei

(3) 否定・反対などの意味を表す接頭辞 un- が付かない形容詞。

(2015 年度春期類題)

1 sicher 2 höflich 3 direkt 4 fähig

解答欄 (1) (2) (3)

【確認ポイント】

多くの語は、**接辞**を伴って、新しい意味の**派生語**を作る。

接辞は、単独では使わない「**語の構成素**」である (たとえば、**Unglück**「不幸」の **Un-**、**glücklich**「幸せな」の **-lich** は、単独で使うことはありません)。

Un- のように、前に付けるものを**接頭辞**、**-lich** のように、後ろに付けるものを**接尾辞**と呼ぶ。

注：使用に関する判断は、Duden online (<http://www.duden.de/woerterbuch>) に準拠します。また、語の前の「*」印は使用不可であることを表します。

【解説と解答】

(1) (冊子本体を参照)

(2) の形容詞の名詞形は Gelassenheit「落ち着き」、Krankheit「病気」、Möglichkeit「可能性」、Freiheit「自由」です。この中で、接尾辞・keitを付けているのは、möglich「可能な」なので、正解は3。

(3) の形容詞に**接頭辞 un-**を付けると、以下のようになります。

sicher	確実な	—	unsicher	不確実な
höflich	礼儀正しい	—	unhöflich	無礼な
direkt	直接の	—	*undirekt	
angenehm	快適な	—	unangenehm	快適でない

したがって、正解は3。なお、direktの反対語は、indirekt「間接の」です。

【一口メモ】

接辞は、2012年度秋期以降、2年間出題されませんでした。2014年度秋期、2015年度春期・秋期と、3回連続して出題されています。接辞の数は限定されているため、出題しやすいでしょう。なお、派生語に関する簡単な説明が本書の18頁19頁にもありますが、今後も出題される可能性があり、また、学習すれば、確実に点数のとれる出題対象です。なお、2015年度秋期は、4つの名詞を並べ、形容詞化の接尾辞が異なるものを一つ選択させるものでした。

【対策学習】派生語と接辞

1. 接辞の付いた語を派生語と呼びます。接辞は、単独で使うことのない「語の構成素」です (Un-, -lich など)。そして, Un- のように前に付ける接辞を**接頭辞**, 後ろに付ける接辞を**接尾辞**と呼びます。

注：動詞の接頭辞（前つづり）については、本冊子第2問－1を参照。

2. 接辞には、**使用される語数が多い**（生産性のある）ものと、もうすでに**特定の語にのみ見られる**（生産性のない）ものがあります。

2. 1. 主な接尾辞

(A) 派生名詞を作る接尾辞

注：以下の表の「(男)」などは文法上の性, 「<」の後ろの語は関連語。

-er	(男)	Leser	読者	<lesen	読む
		Wecker	目覚まし時計	<wecken	起こす
-chen	(中)	Mädchen	女の子		
		Häuschen	小さな家	<Haus	家
					注：以前は -lein も同じ意味で使われていました：Röslein 「小さなバラ」 (<Rose 「バラ」)。
-heit	(女)	Schönheit	美しさ	<schön	美しい
		Wahrheit	真実	<wahr	真実の
-keit	(女)	Einsamkeit	孤独	<einsam	孤独の
		Ewigkeit	永遠	<ewig	永遠の
-igkeit	(女)	Feuchtigkeit	湿気	<feucht	湿った
		Schlaflosigkeit	不眠	<schlaflos	不眠の
-schaft	(女)	Botschaft	大使館		
		Landschaft	風景		
-ung	(女)	Einladung	招待	<einladen	招待する
		Übung	練習	<üben	練習する
-in	(女)	Ärztin	女医	<Arzt	医者
		Sekretärin	女性秘書	<Sekretär	秘書

(B) 派生形容詞を作る接尾辞

-bar	fruchtbar	実りある	< Frucht	実
	brennbar	可燃性の	< brennen	燃える
-lich	ärgerlich	腹立たしい	< Ärger	怒り
	freundlich	親切的な	< Freund	友人
-ig	fleißig	熱心な	< Fleiß	熱心さ
	einmalig	一度だけの	< einmal	一度
-isch	städtisch	町の	< Stadt	町
	chemisch	化学の	< Chemie	化学
-sprachig	fremdsprachig	外国語の	< fremd	外国の
	zweisprachig	2か国語の	< zwei	2

〔参考〕副詞を作る接尾辞

-weise	glücklicherweise	「幸運にも」 (< glücklich 「幸運な」)
	unglücklicherweise	「不運にも」 (< unglücklich 「不運な」)
-wärts	abwärts	「下へ」 (< ab 「…から」)
	nordwärts	「北方へ」 (< Nord 「北」)

2. 2. 主な接頭辞

Miss-	Missernte (女)	不作	< Ernte (女)	収穫
miss-	missbrauchen	濫用する	< brauchen	使用する
Un-	Unruhe (女)	騒がしさ	< Ruhe (女)	静けさ
un-	unbekannt	未知の	< bekannt	既知の
	unmöglich	不可能な	< möglich	可能な
Ur-	Urwald (男)	原始林	< Wald (男)	森
ur-	uralt	非常に古い	< alt	古い
in-	inadäquat	不適切な	< adäquat	適切な
il-	illegal	非合法の	< legal	合法の

〔参考〕接頭辞を付けても、品詞と文法上の性は変化しませんが、Ge- の付いた名詞は、すべて中性名詞になります： **Gebirge** (中)「山地」、**Gepäck** (中)「手荷物」。

【実戦トレーニング】

次の (1) ~ (7) の条件に当てはまるものを下の 1 ~ 4 のうちから一つ選びなさい。

- (1) 名詞 **Mensch** 「人間」に付いて形容詞 **menschlich** 「人間的な」を作る **-lich** のように、**Mut** と結びついて形容詞を作る接尾辞。

1 **-ig** 2 **-isch** 3 **-weise** 4 **-bar**

- (2) **Europa** 「ヨーロッパ」と結びついて形容詞（ウムラウトを伴う）を作る接尾辞。

1 **-ig** 2 **-bar** 3 **-isch** 4 **-sam**

- (3) **Dunkelheit** 「暗闇」の基になる **dunkel** 「暗い」のように、**-heit** と結びついて名詞を作る形容詞。

1 **dankbar** 2 **frech** 3 **heiter** 4 **gemütlich**

- (4) **tragbar** 「持ち運びできる」の基になる **tragen** 「運ぶ」のように、語幹に **-bar** を付けて形容詞を作らない動詞。

1 **essen** 2 **erklären** 3 **drehen** 4 **absagen**

- (5) **Öffnung** 「開店」の基になる **öffnen** 「開ける」のように、**-ung** と結びついて名詞を作る動詞。

1 **ändern** 2 **fliegen** 3 **baden** 4 **klingen**

- (6) 逆・反対であることを表す接頭辞 **Miss-** が付かない名詞（難問）。

1 **Erfolg** 2 **Achtung** 3 **Kauf** 4 **Billigung**

- (7) 対応する動詞の語幹が、**Traum** — **träumen** のように、ウムラウトを含む名詞。

1 **Dank** 2 **Trost** 3 **Bad** 4 **Ruf**

第2問 ー 1 分離前つづり (小問2に対応)

【過去問】 次の文 (A) ～ (D) の () に入る動詞の前つづりが正しい順序で並んでいるものを下の 1 ～ 4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(冊子本体には 2014 年度秋期過去問掲載)

【確認ポイント】

- 主文で定形として用いる場合、前つづりが**分離する**動詞がある。この種の動詞を**分離動詞**と呼ぶ。
- 分離する前つづり (接頭辞) を**分離前つづり**、前つづりを除いた部分を**基礎動詞**と呼ぶ。
- 基礎動詞の位置は、定動詞 (定形の動詞) の**一般的語順規則** (平叙文と補足疑問文の場合は第 2 位、決定疑問文の場合は文頭に置くなど) に準じ、そして、前つづりは**文末**に置く。ただし、**副文**では、分離前つづりと基礎動詞を分離せずに、**文末**に置く。

【解説と解答】

(冊子本体参照)

【一ロメモ】

4つの選択肢を問う形ですので、一見、難しそうですが、上例の D のように、一カ所分かれば、正解が選べるということもあります。消去法を使いながら、分かるところから解答するのが一番合理的な方法のようです。

【対策学習】分離前つづり

1. 平叙文（現在形，過去形）で，動詞の，分離する**接頭辞**を**分離前つづり**と呼びます。

2. 分離前つづりの中には，基礎動詞と一体になって一つの意味を**熟語的に**形成するものもあれば，**独立した意味**を持つものもあります。

たとえば，

Es **hört nicht auf** zu regnen. 雨が降りやみません。

の分離動詞 **auf|hören**「終わる」の場合，分離前つづり **auf** に**独立した意味を認めることができません**が，他方，以下のような分離動詞 **ein|steigen**「乗車する」，**um|steigen**「乗り換える」，**aus|steigen**「下車する」の場合，

Er steigt in Köln **ein**. 彼はケルンで乗車します。

Er steigt in Köln **um**. 彼はケルンで乗り換えます。

Er steigt in Köln **aus**. 彼はケルンで下車します。

それぞれの分離前つづりに，「中へ」，「変更」，「外へ」という**独立した意味を認めることができます**。

3. 独立した意味が認められる主な分離前つづりおよびその具体例を挙げます。

ab- <<離れる>>

ab|fahren「出発する」，**ab|fliegen**「飛び去る」，**ab|fließen**「流れ出る」，**ab|holen**「取って来る」，**ab|laufen**「流れ出す」，**ab|reisen**「旅行に出る，旅立つ」，**ab|schicken**「発送する」

an- <<付着>>

an|binden「結びつける」，**an|kleben**「貼りつける」，**an|knüpfen**「結びつける」，**an|nageln**「くぎで打ちつける」

auf- <<開いた状態>>

auf|drücken「(ドアなどを) 押して開ける」, auf|schlagen「たたいて割る」,
auf|schneiden「切って開ける」, auf|machen「開ける」

aus- <<(中から) 外へ>>

aus|fallen「(髪などが) 抜け落ちる」, aus|gehen「(デート, 友人との飲食
などに) 出かける」, aus|pressen「押し出す」, aus|schließen「排除する」,
aus|schütten「ザーッと空ける」, aus|steigen「降りる」

ein- <<(外から) 中へ>>

ein|führen「輸入する」, ein|lassen「中に入れる」, ein|nehmen「(薬を)
服用する」, ein|reisen「入国する」, ein|setzen「はめ込む」, ein|steigen
「乗る」, ein|tragen「記入する」, ein|treten「(部屋などに) 入る ; 入会す
る」

mit- <<一緒に>>

mit|arbeiten「一緒に働く」, mit|fahren「(乗り物に乗って) 一緒に行く」,
mit|kommen「一緒に来る」, mit|spielen「一緒に遊ぶ」

vor- <<先に・前へ>>

vor|fahren「先に出発する」, vor|gehen「先に行く」, vor|legen「提示す
る」, vor|treten「前に歩み出る」

zu- <<閉じた状態>>

zu|binden「結んで締める」, zu|klappen「(ドアなどが) パタンと閉まる」,
zu|kleben「貼ってふさぐ」, zu|machen「閉める」

zurück- <<戻って>>

zurück|bringen「(元の場所などに) 戻す」, zurück|denken「(昔のことを)
思い返す」, zurück|geben「返却する」, zurück|kommen「戻って来る」,
zurück|werfen「投げ返す」

【実戦トレーニング】

次の (1) (2) の文 (A) ~ (D) の () に入る動詞の前つづりが正しい順序で並んでいるものを下の 1 ~ 4 のうちから一つ選びなさい。

- (1) (A) Ich nehme Ihre Einladung gern ().
(B) Denk (), bevor du sprichst!
(C) Junge Leute gehen am Sonnabend meist ().
(D) Er bindet den Sack mit einer Schnur ().

	(A)		(B)		(C)		(D)
1	auf	—	über	—	mit	—	ab
2	auf	—	zurück	—	zu	—	auf
3	an	—	nach	—	aus	—	zu
4	an	—	mit	—	nach	—	zusammen

- (2) (A) Der Zug fährt ein. Bitte treten Sie ().
(B) Er steht schnell (), um die Gäste zu begrüßen.
(C) Ich schlage (), dass wir heute Pizza essen gehen.
(D) Im November fängt es (), früh dunkel zu werden.

	(A)		(B)		(C)		(D)
1	vor	—	auf	—	vor	—	auf
2	aus	—	zu	—	nach	—	an
3	ein	—	zu	—	nach	—	auf
4	zurück	—	auf	—	vor	—	an

★余裕のある人は、以下の問題も挑戦してみましょう！選択肢は aus, ein, mit, vor で、使用は1度のみ（正解は29頁）。

- (A) Hans steigt in Bonn ().
(B) Machen Sie bitte das Licht()!
(C) Ich habe (), in die Schweiz zu fahren.
(D) Fährst du () zum Angeln?

第2問 ー2 形容詞，副詞

(類義語の使い分けも；小問2に対応)

【類題】次の文 (A) ～ (D) の () に入る語が正しい順序で並んでいるものを下の1～4のうちから一つ選び，その番号を解答欄に記入しなさい。

(2015年度秋期類題；出題文の日本語は一部変更)

- (A) Der Eintritt ist (), man muss sich lediglich per E-Mail anmelden.
(B) () haben wir einen sehr guten Film gesehen.
(C) () gehen wir jeden Sonntag in die Disco.
(D) Ich bin gleich (), ich muss mich nur noch kämmen.

- | | (A) | (B) | (C) | (D) |
|---|-----------|---------------|--------------|---------------|
| 1 | kostenlos | — Neulich | — Vor Kurzem | — seit Kurzem |
| 2 | frei | — Seit Kurzem | — Neuerdings | — fertig |
| 3 | fertig | — Frei | — Neulich | — kostenlos |
| 4 | kostenlos | — Vor Kurzem | — Neuerdings | — fertig |

解答欄 □

【確認ポイント】

- 形容詞は，述語的用法の他に，副詞的用法もある。
- 意味の似ている語を類義語と呼ぶ。

【解説と解答】

まず (A)。訳は、「入場は (…) です，必要なことは，メールで申し込むことだけです」。**kostenlos** と **frei** は、「無料の」という意味で，() に入ります。**fertig** は、「準備ができて (いる)，済んで (いる)」という意味。意味的に整合しないので，入りません。なお，google での検索でも，“der fertige Eintritt” のヒット数は0です。

次に (B)。訳は，「(…) 私たちはとてもよい映画を見ました」。**neulich**

と **vor Kurzem** は、同義で、「(過去の特定の時点を指して) 先日」という意味なので、() に入ります。 **seit Kurzem** は、「(過去から現在までのある期間を指して) このごろ」という意味。意味的に整合しないので、() に入りません。また、 **frei** も、「自由の」などの様々な意味を持ちますが、() に入りません。なお **neulich** よりも **vor Kurzem** の方がよく使われるとのこと。

次に (C)。訳は、「(…) 私たちは、毎日曜日ディスコに行っています」。**neuerdings** は、 **seit Kurzem** と同義で、「このごろ」という意味なので、() に入ります。 **vor Kurzem** と **neulich** は、「先日」という意味ですから、() に入りません。

最後に (D)。訳は、「私はすぐ (…) です、私はもう髪をとかすだけです」。**seit Kurzem** と **kostenlos** は、意味的に () に入りません。 **fertig** は、「完成 (している)、済んで (いる)」という意味ですので、() に入ります。

したがって、結論的には、(A) では選択肢 3 が排除され、(B) では選択肢 2 と 3 が排除され、(C) では選択肢 1 と 3 が排除され、(D) では選択肢 1 と 3 が排除されますので、 **正解は 4**。

【一口メモ】

すでに書きましたように、一見、難しそうに見えますが、4つの文の中から、正解になりうるものと正解になりえないものを選び出していけば、自ずと正解に辿り着く（あるいは正解の方向が見えて来る）はず。ただし、分離前つづりの場合は、数が限定されていて、対策用の学習も可能なのですが、今回のような、形容詞や副詞が対象になり、かつ類義語が問題になると、「運を天に任せて」語彙力を増やす以外に、道はなさそうです。次の頁に形容詞と副詞の類義語の例を記載しておきますので、学習してください！なお、「運」が味方しなくても、ご容赦を。また、実戦トレーニングの作成はご勘弁を！

【対策学習】 形容詞と副詞の類義語

1. kostenlos と umsonst

kostenlos 無料の、料金などをとらない：

Der Eintritt ist kostenlos.

入場は無料です。

umsonst (行為などに対する) お返しを求めず：

Er hat ihr umsonst geholfen, er hat nichts dafür verlangt.

彼はお返しを求めず彼女を助けました、彼はその手助けに対し何も要求しませんでした。

2. vorhin と vorher

vorhin (現時点を基準にし) ちょっと前に、さきほど：

Ich habe ihn erst vorhin gesehen.

私はついさきほど彼を見かけました。

vorher (過去のある時点を基準にし) その前に、前もって：

Warum hast du mir das nicht vorher gesagt?

君はなぜ私にそのことを前もって言ってくれなかったの？

3. kaum と selten と wenig

kaum (一般的な意味で) ほとんど…ない：

Ich kenne ihn kaum. 私は彼のことをほとんど知りません。

selten (頻度が極めて少ないという意味で) めったに…ない：

Wir sehen ihn selten.

私たちは彼にめったに会いません。

wenig (数量的に) ほとんど…ない：

Sie kümmert sich wenig um die Eltern.

彼女は両親のめんどうをほとんどみません。

gering (否定的評価を含んで) わずかな、乏しい：

Die Steuereinkommen der Gemeinde sind sehr gering.

村の税収は非常にわずかなものです。

4. **irrtümlich** と **versehentlich**

irrtümlich (思い違いから) 間違つて :

Er nahm irrtümlich den Mantel seines Freundes mit.

彼は友人のコートを(自分のものと勘違いして)持って行ってしまいました。

versehentlich (不注意から) うっかりして :

Er nahm versehentlich den Mantel seines Freundes mit.

彼はうっかりして友人のコートを持って行ってしまいました。

5. **anscheinend** と **scheinbar**

anscheinend (話者の印象などを表し) 見たところ, …と見える :

Er gab seinen Plan anscheinend auf. 彼は計画を諦めたようです。

scheinbar (見かけと事実とが異なるという話者の考えを表し) 見かけ上, …と見える

(注: 口語ではまれに **anscheinend** と同義) :

Er hat seinen Plan scheinbar aufgegeben.

彼は計画を諦めたように見えました (が, 実際は違います)。

6. **wahrscheinlich** と **vielleicht** と **vermutlich** と **wohl**

wahrscheinlich (一定の確信をもって推測し) たぶん :

Bist du nächste Woche wieder zurück? — Wahrscheinlich.

君は来週戻って来ますか? — たぶん。

vielleicht (かなり低い確信度で推測し) ひょっとすると :

Ich habe mich vielleicht geirrt.

ひょっとすると, 私の思い違いかも知れません。

vermutlich (ほとんど何も分らない事柄について主観的に推測し) 察するところ :

Er wird vermutlich rechtzeitig zurück sein.

彼は遅れずに戻って来るでしょう。

wohl (一般的に) たぶん, おそらく

In einiger Zeit wird wohl alles wieder vergessen.

時間が少し経てば, たぶん全部再び忘れ去られるでしょう。

第3問 — 1 定型表現（熟語）と語句の配列

(小問3に対応)

【過去問と類題】 次の(1)(2)の会話の()に入る最も適切なものを下の1～4のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) (冊子本体には2014年度秋期過去問掲載)

(2) A : Können wir schon gehen?

B : Nein, Mama ist ().

- 1 mit dem Schminken noch nicht fertig
- 2 noch mit dem Schminken nicht fertig
- 3 nicht noch fertig mit dem Schminken
- 4 fertig mit dem Schminken noch nicht (類題)

解答欄 (1) (2)

【確認ポイント】

- 語や語句は、時間軸に沿って、一線上に並べられる。
- 語と語、語句と語句の意味関係は、その密接さに相違がある。
- 動詞との意味関係が密接なものほど文末の方に置かれる。
- 内容を規定する語句は、規定される語句の後ろに置かれる（2格名詞に準じる）。
- 語句を否定する場合、否定される語句は、否定の語（nicht など）の後ろに置く。

【解説と解答】

(1) (冊子本体参照)

(2) は、**fertig** と **mit dem Schminken** と **nicht** と **noch** の語順関係 (Schminken は、動詞 **schminken** 「化粧をする」の名詞化)。

まず、**fertig** と **mit+3格** の語順関係ですが、**mit+3格 fertig** でも **fertig mit+3格** でもよいので (意味は「…³が済んでいる」)、両者の語順関係は決め手になりません。

次に、**nicht** ですが、**nicht** は、否定される語句の前に置かれます。したがって、否定されるのが「済んでいる」だけならば、**fertig** の直前、「化粧が済んでいる」ならば、**mit dem Schminken fertig** 全体の前ということとなります。この点で選択肢4が外れます。

最後に、**noch** ですが、**nicht** と結びつく場合、上掲の(1)と同じように、**noch nicht** の順序になります (「まだ…でない」)。

したがって、残る選択肢は1のみなので、**正解は1**。訳は、「A: もう行けるかい?」「B: ううん、お母さんのお化粧がまだ済んでいないの」。

【一口メモ】

定型表現と語順の問題は、2015年度秋期の場合、小問4と統一され、小問3では、代わりに、次の「第3問-2」で示すように、接続法が出題されました。今後どうなるのでしょうか?一応、念のために、23頁の【実戦トレーニング】に類題を2問作っておきました。

【対策学習】定型表現（熟語）と語句の配列

1. 一口メモで書きましたように、2015年度秋期では、定型表現と語句の配列の問題は、小問4に統一され、代わりに、接続法が出題されました。しかし、定型表現も語句の配列も、重要な出題ポイントで、今後も、何らかの形で出題されると考えられますので、以下、動詞・形容詞の定型表現と **nicht** の熟語的結合を挙げることにします。

2. 動詞・形容詞の定型表現

- (1) **bereit sein** + zu 不定詞句 …する用意がある

Er ist stets **bereit**, für sie alles zu opfern.

彼はつねに、彼女のためならすべてを犠牲にする覚悟でいます。

- (2) **Lust haben** + zu 不定詞句 …する気がある

Ich habe heute keine **Lust**, einkaufen zu gehen.

私はきょう買い物に出かける気になりません。

- (3) **Klavier spielen** ピアノを弾く

Sie spielt sehr gut **Klavier**. 彼女はとても上手にピアノを弾きます。

- (4) **in Mode sein** 流行っている

Was ist gerade **in Mode**? 今何が流行っていますか？

- (5) **in Ordnung sein** 正常な状態である

Das ist natürlich nicht **in Ordnung**.

それはもちろん問題がないわけではありません。

- (6) an + 3格 **interessiert sein** …³に興味を持っている

Wir sind an diesem Projekt **interessiert**.

私たちはこのプロジェクトに興味を持っています。

- (7) mit + 3格 **zufrieden sein** …³に満足している

Sie ist nicht mit ihrem Job **zufrieden**.

彼女は自分の仕事に満足していません。

- (8) 4格 + **im Stich** lassen …⁴を見捨てる
Er hat seinen Freund **im Stich** gelassen.
彼は彼の友人を見捨てました。
- (9) 3格 + 4格 + **zur Verfügung** stellen …³に…⁴を自由に使う
Ich stelle Ihnen gern alle Informationen **zur Verfügung**.
私はあなたに喜んであらゆる情報を提供いたします。

3. nicht の熟語的結合

- (1) **gar nicht** / **durchaus nicht** / **überhaupt nicht** 全然…でない
Das kommt **überhaupt nicht** in Frage!
それは全然問題になりません。
- (2) **noch nicht** まだ…でない
Er arbeitet **noch nicht**. 彼はまだ働いていません。
- (3) **nicht einmal** …すら～でない
Ich weiß **nicht einmal** seinen Namen.
私は彼の名前さえ知りません。
- (4) **nicht ganz** まったく…というわけではない
Er versteht es **nicht ganz**.
彼はそのことを完全に理解しているわけではありません。
- (5) **nicht im Geringsten** これっぽっちも…でない
Das interessiert mich **nicht im Geringsten**.
それは私の興味をこれっぽっちも引きません。
- (6) **nicht mehr** もはや…でない
Sie arbeitet **nicht mehr**. 彼女はもう働いていません。
- (7) **nicht ohne** …がないわけではない
Er hat es **nicht ohne** Grund getan.
彼がそうしたのそれはそれなりの理由があったのです。

第3問 — 2 接続法と副文の複合的動詞句 (小問3に対応)

【類題】 次の (1) (2) の () に入る最も適切なものを下の 1 ~ 4 のうちから一つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(1) In der E-Mail schrieb Hans, ().

- 1 er ginge heute in die Disco, weil er im Lotto gewonnen habe
- 2 er ginge gestern in die Disco, weil er im Lotto gewonnen hätte
- 3 er sei in die Disco gegangen, weil er gestern im Lotto gewinnen würde
- 4 er wäre morgen in die Disco gegangen, weil er im Lotto gewonnen habe

(2015 年度秋期類題)

(2) A : Bereust du das?

B : Ja, jetzt weiß ich, dass ich es ().

- 1 nicht hätte tun sollen
- 2 nicht tun sollen hätte
- 3 tun nicht sollen hätte
- 4 hätte sollen nicht tun

(2015 年度春期類題)

解答欄 (1) (2)

【確認ポイント】

- 接続法には、第 1 式と第 2 式があり、それぞれに現在と過去と未来と (言い換え表現としての) **würde** 形式がある。
- 接続法の主な用法は、間接話法と非現実話法である。
- 副文の複合的動詞句で不定詞が連続する場合、定動詞は、連続する不定詞の前に置く。

【解説と解答】

(1) の場合、冒頭が「メールでハンスが (…) と書いてきました」なので、問題は、**間接話法**の文の作り方ということになります。

間接話法の場合、他人が話した<書いた>ことを **dass 文**で表現することも、定動詞を第2位に置く**主文形式**で表現することもあります。この場合、後者の主文形式で表現しております。

間接話法の定動詞が問題になりますので、接続法の形を確認することにししょう。(なお、接続法第1式は接I、接続法第2式は接IIと略記します。)

まず、前半の主文形式のところです。選択肢1と2の場合は **ginge (接II 現在)**、選択肢3の場合は **sei ... gegangen (接I 過去)**、選択肢4の場合は **wäre ... gegangen (接II 過去)** です。

間接話法の場合、接Iと接IIは、意味上、本質的な差異がありませんので(詳細は省きますが、次頁の注を参照)、両者の相違は、正解を選ぶポイントになりません。それに対して、現在か過去かの時制の相違は、明白な判断ポイントになります。そこで、それぞれの選択肢の他の語句を見ると、選択肢1には時間副詞の **heute** が、選択肢2には時間副詞の **gestern** が、選択肢4には時間副詞の **morgen** があります。それらとの意味的整合性から選択肢2と4が外れます。

次に、後半の副文のところ(ただし、残った選択肢1と3に限定します)。選択肢1の場合は **gewonnen habe (接I 過去)**、選択肢3の場合は **gewinnen würde (接II 未来)** です。前半の主文形式のところと同じように、時制と時間副詞の関係を見てみると、選択肢3では、**接続法現在**と時間副詞の **gestern** が使われています。これらは意味的に整合しませんので、この選択肢は、外れます。

したがって、**正解は1**。訳は、「彼は、ロトが当たったので、きょうディスコに行くと (…)」になります。

(2) も、接続法の問題ですが、こちらは、**副文**における **nicht** と **tun** と **sollen** と **hätte** による**接続法第2式過去**の作り方の問題です。

まず、確認すべきことは、①**話法の助動詞**の場合、不定詞が過去分詞の代用形として用いられるということと、②**副文**の場合、定動詞(定形の動詞)や動詞的成分が文末に置かれるということです。

では、なぜこの2点が問題になるのかと言うと、ドイツ語には、不定詞＋「過去分詞の代用形としての不定詞（特に話法の助動詞）」＋定動詞の順序で動詞が並ぶ場合、最後の定動詞は、前の2つの不定詞の前に置くという規則があるのです。

したがって、**正解は1**。訳は、「A:後悔しているの?」「B:うん、今、私は、それがすべきでなかったことだと分かったのです」。なお、本動詞＋**sollen / können + haben**の接Ⅱは、主語が1人称の場合、後悔を表し、2人称・3人称の場合、非難を表します。

【一口メモ】

これまで、**noch nicht**の順序という語彙的なものと、副文での語順という文法的なものが出題されましたが、今年の秋期には、**接続法**が出題対象になりました。今後、どのような問題が出題されるのか…本当に、直接、尋ねることができれば一番よいのですが。

注：間接話法における接Ⅰと接Ⅱの使い分け

接Ⅰと直説法が**同形**になる場合、接Ⅰを使って間接話法であることを**一義的に示す**ことができません。そのような場合、以下のように接Ⅱを使うのです：

Er sagte mir, **ich hätte** keine Zukunft mehr.

彼は私に、私にはもはや未来というものがないと言いました。

接Ⅰの形が直説法と異なるのは、①動詞 **sein** の全変化形、②話法の助動詞と **wissen** の単数形（たとえば **er darf** – **er dürfe**）、③他の動詞の3人称単数形（たとえば **er fährt** – **er fahre**）などで、それ以外はほぼすべて同形です。したがって、これら以外の場合は、間接話法では、接Ⅱを用いることとなります。ただし、口語では、接続法の代わりに、直説法が一般的な形になりつつあります。このことも覚えておいてください。

【実戦トレーニング】

次の会話 (1) ~ (4) の () に入る最も適切なものを下の 1 ~ 4 のうちから一つ選びなさい。

(1) A : Warum siehst du so traurig aus?

B : Ich habe () .

- 1 keine Zeit mehr, auf die Prüfung mich vorzubereiten
- 2 mehr keine Zeit, mich auf die Prüfung vorzubereiten
- 3 mehr keine Zeit, auf die Prüfung mich vorzubereiten
- 4 keine Zeit mehr, mich auf die Prüfung vorzubereiten

(2) A : Du siehst so froh aus.

B : Ja, ich habe () gewonnen.

- 1 im Lotto schon wieder
- 2 schon wieder im Lotto
- 3 wieder schon im Lotto
- 4 schon im Lotto wieder

(3) A : Warum bist du böse auf ihn?

B : Weil er mir nicht helfen wollte, obwohl er () .

- 1 es hätte können tun
- 2 es können tun hätte
- 3 es hätte tun können
- 4 es tun können hätte

(4) A : Du siehst betrübt aus.

B : Ja, ich habe etwas gemacht, was ich () .

- 1 nicht hätte sollen tun
- 2 nicht tun sollen hätte
- 3 nicht tun hätte sollen
- 4 nicht hätte tun sollen

第4問 複雑な複合文の作り方 (小問4に対応)

【過去問と類題】次の(1)の場合は(A)～(E)，(2)の場合は(A)～(D)を並び替えて文を作るとき，正しい順序で並んでいるものを下の1～4のうちから一つ選び，その番号を解答欄に記入しなさい。なお，文頭に来る語の頭文字も小文字のままで，コンマ(,)とピリオド(.)は省かれています。

(1) (冊子本体には2014年度秋期過去問掲載)

- (2) (A) auf dem ich dann Platz nahm
(B) sagte er widerwillig
(C) und stand langsam von seinem Stuhl auf
(D) „Na gut“

- 1 (D) → (B) → (C) → (A)
2 (D) → (C) → (A) → (B)
3 (B) → (D) → (C) → (A)
4 (B) → (C) → (A) → (D)

(類題)

解答欄 (1) (2)

【確認ポイント】

□テキスト（文）の語句は、文法的決まりを除けば、基本的に、相手が理解しやすいように並べる。したがって、たとえば、以下の場合、a) より b) の方が好まれる：

a) おじいさんとおばあさんが／あるところに／昔々／住んでいました。...

b) 昔々／あるところに／おじいさんとおばあさんが／住んでいました。...

注：以前、学生が大学図書館にあるドイツ語の小説の冒頭文のみをすべて調査したところ、大半が場所や時間の副詞句だったとのこと。

【解説と解答】

(1) (冊子本体を参照)

(2) では、選択肢が4つありますが、この場合も、主語と動詞のある選択肢を軸にして考えます。

選択肢の中で**主語と動詞**を含むものは、(A) と (B) ですが、(A) は、動詞が**文末**に置かれているので（さらに言えば、関係文なので）外れ、軸になるのは (B)（「彼はしぶしぶ言った」）ということになります。

次に、軸になる (B) と結合する選択肢を探しますが、(B) では、定動詞が先頭に置かれています。平叙文なら、**定動詞（定形）第2位**の原則に基づき、その前に何か置かれねばなりません。候補になりうるのは、発話の内容の (D)（「まあ仕方ないな」）ですね。

次に、(B) の後ろに置くことができるものです。(A) は、関係文。しかし、(B) の中には、(A) の**先行詞**になりうる語が存在しないので、外れます。残るのは、並列する（主語のない）主文の (C) のみ（「そしてゆっくりと椅子から立ち上がった」）。

最後に、残った (A) は、(C) の Stuhl「椅子」を先行詞とする関係文として末尾に置かれます（「それでその上に私は座りました」）。

したがって、**正解は1**。

【一口メモ】

小問4は、語句を結びつけて一つの文を作ることができるかを問うことですので、必然的に、複数の主文や副文（関係文、zu不定詞句も含む）を組み合わせることになります。

2014年度秋期の場合は、関係文と間接疑問文とalsの副文、2015年度春期の場合は、dennの並列文とnachdemの副文とum+zu不定詞句、そして2015年度秋期の場合は、副文での語順とimstandeの定型表現+zu不定詞句、そして前置詞句の目的語と様態の副詞句の配列（順序）が出題されました。

したがって、一番の対策は、上記の文法項目を一つひとつしっかり学習しておくことになりますね。

【対策学習】複雑な複合文の作り方

1. 従来の単語レベルの組み合わせではなく、長い語句や副文、関係文を並び替えて、複雑な複合文を作ることができるかどうかが出題のポイントです。このような場合、必要なのは、副文、zu 不定詞句、関係文などの読解力でしょうね。これらの文法事項については、本書の第3章と第4章で学習してもらうことにし、ここでは、この設問に関して有益であると考えられるポイントをいくつか述べることにします。

2. 1点目は、ドイツ語の文では、基本的に**主語と動詞**が表示されるということです。

日本語では、「知ってる?」「うん、知ってる」「本当に知ってるの?」「本当に知ってる」…というような**主語なし**の会話は可能ですが、ドイツ語では、不可能ですね。動詞を使用する限り、基本的に、主語も表示しなければならないからです。

(この点を考慮して、【解説と解答】では、「主語と動詞が明示されている」選択肢を探ることが解答への第一歩と書いたのです。)

3. 2点目は、ドイツ語の文では、**文頭**、**2番目**(第2位)、**文末**という3つの位置が重要ということです。

たとえば、日本語を学ぶ外国人から、日本語では文頭にどのような語句を置くのですかと尋ねられたら、みなさんは、どう答えますか?「**私は**、そんなこと、わかりま、せん」という文の場合、文頭は主語、「**そんなこと**、わかりま、せん」と言えば、文頭は目的語、「**わかりま、せん**」と言えば、…。このように、日本語の場合、かなり気軽に色々の語句を省略するので、**文頭**に置く語は?と尋ねられても、答に窮するのです。

英語の場合はどうでしょう。文末にはどのような語句を置くのか?と尋ねられたら、どう答えますか?たとえば、**I am very busy now.** と言えば、文末の語は副詞、**I am very busy.** と言えば、形容詞。

他方、文頭に置く語は?と言えば、例外はありますが、ふつうは主語です。このように、英語の場合、主語を文頭に、必要に応じて語句を並べていくので、文末は?と尋ねられても、答に窮するのです。

では、ドイツ語の場合はどうでしょう。定動詞（定形の動詞）の位置は、基本的に、第2位（平叙文、補足疑問文）、文頭（決定疑問文）、文末（副文）と決まっておりますね。では、ドイツ語の場合、なぜこのように順番を指定することができるのでしょうか？それは、上の2で述べたように、ドイツ語には、動詞を用いる場合、主語、目的語、密接な関係にある前置詞句などを省略しないという規則があるからです。日本語ではふつう省略される語句も、人称代名詞や副詞によって言い換えられるので、語句の順番がしっかりと保持されるのです。（たぶん、だから、ドイツ語の人称代名詞は、数が限定されていて、また、形として単純なのでしょうね。）

4. 3点目は、文中での語句の（構造的）**相互関係**が明示されるということです。すでに皆さんは、主語としての **zu** 不定詞句を文末に持って行った場合、その元の位置に非人称の **es** を置くということを学びましたね。目的語としての **zu** 不定詞句を文末に持って行った場合も、— こちらは動詞次第になりますが —、その元の位置に非人称の **es** を置くことがあります。

***Es* ist mein Traum, in Deutschland zu studieren.**

ドイツの大学で学ぶのが私の夢である。

Als Kind habe ich *es* gehasst, ins Museum zu gehen.

子供のころ、私は博物館に行くのが嫌いでした。

これも、文中での構造的関係を明示的に示すためなのです（このような観点から、本書 48 頁の、不定関係代名詞文における指示代名詞の使用に関する説明も読んでください）。ドイツ語では、とにかく何が主語で、何が目的語であるかを明示「しまくる」のです。したがって、逆に言うと、ドイツ語を読む際、何が主語であり、何が目的語であるかをしっかりと捉えることが重要だということになります。

【実戦トレーニング】

次の (1) ~ (3) で、(A) ~ (D) を並び替えて文を作るとき、正しい順序のものを下の 1 ~ 4 のうちから一つ選びなさい。なお、文頭に来る語も小文字、コンマ (,) とピリオド (.) も省かれています。

- (1) (A) weil sie seit gestern Fieber hat
(B) dass sie heute nicht auf unsere Kinder aufpassen kann
(C) sie hat mich angerufen
(D) um mitzuteilen
- 1 (A) → (C) → (D) → (B)
2 (D) → (B) → (A) → (C)
3 (C) → (D) → (B) → (A)
4 (D) → (B) → (C) → (A)
- (2) (A) in dem es jeden Tag ganz selbstverständlich hell wird
(B) wenn ich nachdenke
(C) dann bekomme ich ein unangenehmes Gefühl
(D) dass ich in einem Land lebe
- 1 (B) → (C) → (D) → (A)
2 (B) → (D) → (A) → (C)
3 (A) → (D) → (C) → (B)
4 (D) → (A) → (B) → (C)
- (3) (A) die in die Rentenkasse einzahlen
(B) sie aber zu wenig Kinder in die Welt setzen
(C) weil die Lebenserwartung der Deutschen steigt
(D) kommen auf immer mehr Rentner immer weniger Jüngere
- 1 (B) → (C) → (D) → (A)
2 (C) → (A) → (D) → (B)
3 (B) → (D) → (C) → (A)
4 (C) → (B) → (D) → (A)

【実戦トレーニング】の正解表

第1問

- (1) 1 (→ mutig 「勇敢な」)
- (2) 3 (→ europäisch 「ヨーロッパの」)
- (3) 2 (→ Frechheit 「厚かましさ」)
- (4) 4 (absagen 「取り止める」 → *absagbar)
- (5) 1 (→ Änderung 「変化」)
- (6) 3 (Kauf 「購入」 → *Misskauf)
- (7) 2 (→ trösten 「慰める」)

第2問-1 (2の実戦トレーニングなし)

- (1) 3 (A) an|nehmen 「(招待などを) 受ける」
(B) nach|denken 「熟慮する」
(C) aus|gehen 「(楽しい時間を過ごすために) 出かける」
(D) zu|binden 「(紐などを) 結んで締める」
- (2) 4 (A) zurück|treten 「後ろに下がる」
(B) auf|stehen 「起き上がる」
(C) vor|schlagen 「提案する」
(D) an|fangen 「始まる」

<追加問題の正解>

(A) ein, (B) aus, (C) vor, (D) mit

第3問

- (1) 4 A: なぜそんな悲しそうな顔をしているの?
B: 試験勉強をする時間がもうないのです。
- (2) 2 A: とてもうれしそうだね。
B: うん, またもやロトで当たったんだ。
(im Lotto gewinnen と schon wieder の組み合わせ)
- (3) 3 A: なぜ彼に腹を立てているの?
B: しようと思えばできたのに, 私のことを助けようとしてくれなかったから。
- (4) 4 A: 憂鬱 (ゆううつ) そうだね。

B: うん、すべきでないことをやってしまったんだ。

第4問

- (1) 3 訳: 熱があるので、子供の面倒を見ることができないと伝えるために、彼女が電話をして来ました。
- (2) 2 訳: 私は、まったく当然のように電気のつく国に住んでいることを考えると、少し心苦しい感じがします。
- (3) 4 訳: ドイツ人の平均余命が伸び、しかし生まれる子供の数が少な過ぎるため、ますます増える年金生活者に対して年金基金に支払う若い人たちの数がますます減少します。

* (3) の場合、(B) → (A) は、文法的に可能ですが、文脈的に排除されます。また、名詞を修飾する **zu wenig** 「少な過ぎる」、**immer mehr** 「ますます多くの」、**immer weniger** 「ますます少ない」には、格語尾を付けません。難しかったですか？

【読解・リスニング対策】

読解・リスニング対策は、2級の場合、本書で十分か？と問われたことがあります。文法的説明、そしてその用例は、かなり充実していると思うのですが、読解力・リスニング力については、**理解**の問題というより、**慣れ**の問題もあるので、みなさんの独自の努力もお願いしたいところです。

私は、ドイツ留学中、新聞を定期購読しておりましたが、毎日送られて来る新聞を最初はただ**眺めるだけ**でした。テレビもつけっぱなしにしてただ音声を**聞くだけ**でした。しかし、慣れて来ると、短い新聞記事なら何となく読めるようになり、テレビから流れて来る音声も知っている単語なら何となく聞き取れるようになりました。

今や、インターネット上でドイツ語の記事を好きなだけ読めるように、音声も好きなだけ聞けるようになっていきます。みなさんもまずはドイツ語の**長文**、**音声に慣れることを目標に**、毎日インターネット上の何かしらのサイトを開いて、ドイツ語を「眺めたり」、「聞いたり」してみてはいかがでしょうか？ 私のお勧めは、**Deutsche Welle** (google で **deutsche welle deutsch** と入力) です。

【補足：接続法第2式の用例一覧】

☆今年秋の小問3で間接話法が出題されましたので、補足情報として、非現実話法の用法の一覧を載せておきます。

- **Wenn ich keine Freundin hätte, könnte ich fleißig Deutsch lernen.**
もしガールフレンドがいなければ、僕は熱心にドイツ語を学ぶことができるのだがなあ。
- **Wenn er Geld gehabt hätte, wäre er nach Deutschland geflogen.**
もしお金があったならば、彼はドイツに行っていたことでしょう。
- **Wenn sie käme, wäre ich froh.**
彼女が来られるのなら、僕は嬉しいのだがなあ。
- **Hätte ich genug Zeit, so würde ich dir helfen.**
時間が十分あれば、君の手助けをするのだが。
- **An deiner Stelle würde ich ihn danach fragen.**
僕が君ならば、彼にそのことを尋ねてみるがね。
- **Ohne dich könnte ich nicht mehr leben!**
君がいなければ、僕はもう生きてはいけない！
- **Wenn ich dir nur helfen könnte!**
君の手助けが出来さえすればなあ！
- **Er sah aus, als ob er tot wäre.**
彼はまるで死んでいるようでした。
- **Ich hätte gern Kaffee, bitte.** コーヒーを頂けますか？
- **Wäre es möglich?** 可能でしょうか？
- **Könnte ich dich umarmen?** 君を抱きしめてもいいかい？
- **Wie wäre es mit einem Kaffee?** コーヒーを一杯いかがですか？
- **Könnten Sie das noch einmal sagen?**
すみませんが、もう一度言っていただけますか？
- **Würden Sie bitte das Fenster schließen?**
すみませんが、窓を閉めていただけませんか？
- **Beinahe hätte er den Zug nicht mehr erreicht.**
もう少しのところで彼は列車に間に合わないところだった。
- **Endlich hätten wir's geschafft.** とうとうやり遂げたぞ。